

## 第1回総合的な子ども・子育て支援のための組織の在り方検討会議 議事概要

1. 日時：平成24年9月19日（水）10:58～11:12
2. 場所：官邸3階南会議室
3. 出席者：小宮山国務大臣、長浜官房副長官、園田内閣府大臣政務官、藤田厚生労働大臣政務官、神本文部科学大臣政務官、山崎内閣審議官
4. 議事要旨

### （1）大臣挨拶

- ・先の通常国会で3党で合意をして、子ども・子育ての新しい制度ができたことは、非常に大きなこと。先週新制度の施行に向けての準備室も、内閣府、文科省、厚労省の3府省で立ち上げて、これでしっかりと準備を進めていくわけだが、いたり着く先には、子どものことを一元的にちゃんと取り扱う組織が必要であり、それを3党で合意をしている。
- ・いろいろな課題、有識者からのヒアリングや、諸外国の状況を調べていただいたりするわけだが、これまで党の中で検討してきたときには、ノルウェーの子ども家庭省をモデルとしていた。そこは子どもと男女共同参画、消費者行政が入っていたのだが、つくったときとまた年数が経っているし、各国を見ると教育の方に寄せている国が多いということもあり、日本にふさわしい、本当に子どものための一元的な組織、そして子育てを支援できる組織というのはどういう形にすればいいのかということをご議論いただきたい。
- ・できれば1年くらいで方向性のある程度、中間報告していただきたい。
- ・平成27年4月、本格的に新しい制度がスタートするときに、子ども・子育て本部を内閣府につくる。将来の子ども家庭省か、子ども省か、名前はわからないが、一元的な組織をしっかりとつくる、その形を目指して、途中経過として子ども・子育て本部がしっかりとできるようにしていくのが、一番いい道筋だと思うので、ぜひそういう時間の感覚も見据えながらやっていただきたい。

### （2）事務局説明

- ・「総合的な子ども・子育て支援のための組織の在り方検討会議」の開催の経緯や、検討体制、検討の進め方について、説明があった。

### （3）意見交換

- ・この検討会議においても、本格施行に向けた組織の在り方についての検討、議論の過程を、適宜ご報告をきちんとさせていただきたい。先ほど大臣から、1年くらいを目途にしっかりと検討するよう指示をいただいたが、諸外国などの状況などについてヒアリングをしながら、日本の中での在り方について検討していきたい。
- ・行政組織の在り方というのは、一番肝になるところだろう。ここがうまく形ができるかどうかで、新しい制度というのがうまくいくかどうか決まっていくのではないかと。
- ・多岐にわたっている子どもの政策を一元的にやっという、これまで考えていたことが、やっというこれから本格的に議論をして、形をつくることのできるかということで大変

うれしく思っている。

- ・ 諸外国では、子ども政策を実施していくには、子ども家庭省から教育省にかわっている国もあるが、どうしてこういう判断になったのかということを含めて、有識者の話を聞き、検討し、一年間で中間とりまとめ、ということなので駆け足になると思うが、子どものことを考えた政策になるとよいと思う。
- ・ 政権交代して最初に子ども・若者ビジョン、子ども・子育てビジョンをつくった。ここで総合的に考えていかなければいけない課題というのをある程度明確になっているので、こういったことも考えながら、行政組織としてどういった考え方があるかということを検討していきたい。
- ・ 男女共同参画ということで女性の労働をもってくると男性の労働をどうするのかという課題もあるし、また、生涯を通じた教育について子どもだけ分断するのはどうかという課題もある。メディアも含め関心をもたれているが、結局、各省縦割りで既得権を温存し変わらないのではないかという見方もされている。子どもたちのために純粋に知恵を絞って、確実に、日本にふさわしい形を出してほしい。
- ・ 非常に多岐にわたっている部分で、はたから見ていても、関係者の皆さんがみても、ちゃんと進んでいるんだなということがわかるような、議論の仕方、整理の仕方をしてほしい。
- ・ 子ども・子育て新システムを検討していた際に行っていた基本制度ワーキングチームは、毎回3時間近い議論をフルオープンでやった。今回は内部で検討していくが、毎回きちんとブリーフをして、毎回こういうことをやった、こういったことが進んでいるということを周知してほしい。